

## 2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年8月7日

上場会社名 株式会社ゼンショーホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 7550 URL <http://www.zensho.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長兼CEO (氏名) 小川 賢太郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 グループ経理本部長 (氏名) 丹羽 清彦 (TEL) 03 (6833) 1600  
 四半期報告書提出予定日 2020年8月7日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	128,373	△16.3	△7,970	-	△8,135	-	△6,382	-
2020年3月期第1四半期	153,319	6.4	4,434	49.9	4,082	42.5	1,917	66.1

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 △6,645百万円( -%) 2020年3月期第1四半期 △680百万円( -%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	△41.71	-
2020年3月期第1四半期	13.19	-

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第1四半期	379,672	77,019	20.2	502.17
2020年3月期	365,853	86,793	23.7	563.30

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 76,816百万円 2020年3月期 86,613百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	-	10.00	-	10.00	20.00
2021年3月期	-	-	-	-	-
2021年3月期(予想)	-	10.00	-	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

2021年3月期の配当予想につきましては、2021年3月期の業績予想の算出に伴い、上記のとおり公表いたします。

## 3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	291,486	△8.9	△3,009	-	△3,630	-	△3,916	-	△25.47
通期	625,403	△0.8	8,839	△57.7	7,396	△62.8	1,000	△91.7	6.50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

2021年3月期の連結業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき算出いたしましたので、上記のとおり公表いたします。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期1Q	154,862,825株	2020年3月期	154,862,825株
② 期末自己株式数	2021年3月期1Q	1,893,754株	2020年3月期	1,102,736株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期1Q	153,022,740株	2020年3月期1Q	145,388,910株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。上記予想に関する事項は添付資料の4ページをご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(企業結合等関係)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2020年4月1日から2020年6月30日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行に伴い、個人消費及び経済活動が停滞し景気が急速に悪化したことから極めて厳しい状況となりました。

外食産業におきましても、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた外出自粛要請及び緊急事態宣言による休業や営業時間の短縮等により厳しい経営環境となりました。緊急事態宣言の解除後は、経済活動が再開しつつありますが、依然として感染拡大の懸念もあり、不透明な状況が続いております。

このような状況の中、「すき家」をはじめとする牛丼カテゴリの既存店売上高前年比は85.9%、「ココス」、「ジョリーパスタ」をはじめとするレストランカテゴリの既存店売上高前年比は57.9%、「はま寿司」をはじめとするファストフードカテゴリの既存店売上高前年比は75.2%となりました。

当第1四半期連結会計期間末の店舗数につきましては、74店舗出店、44店舗退店した結果、9,856店舗(FC4,316店舗含む)となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高1,283億73百万円(前年同期比16.3%減)、営業損失79億70百万円(前年同期は営業利益44億34百万円)、経常損失81億35百万円(前年同期は経常利益40億82百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失63億82百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益19億17百万円)となりました。

セグメント別の概況につきましては、以下の通りであります。

#### ① 外食事業

外食事業の当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、新型コロナウイルス感染症の流行の影響を受け、売上高は1,049億50百万円(前年同期比21.2%減)、営業損失は88億9百万円(前年同期は営業利益44億41百万円)となりました。

新型コロナウイルス感染症の影響につきましては、政府・自治体による外出自粛要請及び緊急事態宣言の発出以降、店舗営業の自粛、営業時間の短縮等により売上高が減少しましたが、お客様のテイクアウト、デリバリーのニーズの高まりに対応し、販売体制の強化、メニューの拡充、Web予約システム導入等に取り組み、売上高の確保に努めました。緊急事態宣言の解除後は、感染防止策を継続しながら通常営業を再開し、回復基調となりました。

外食事業における主要カテゴリの状況は、以下の通りであります。

##### (牛丼カテゴリ)

牛丼カテゴリの当第1四半期連結累計期間の売上高は、464億43百万円(前年同期比12.7%減)となりました。

株式会社すき家が経営する牛丼チェーンの「すき家」につきましては、お客様の多様なニーズにお応えできるよう、「すき家de健康」をテーマとして、「ケールレタス牛丼」(並盛税込550円)、「シーザーレタス牛丼」(並盛税込530円)、「ハニマスレタス牛丼」(並盛税込530円)等を導入し、商品力の強化に取り組んでまいりました。

今後ともお客様に愛される店舗づくりを目指すとともに、安全でおいしい商品を安心して召し上がっていただけるよう、さらなる品質管理の徹底と店舗水準の向上に努めてまいります。

株式会社なか卯が経営する井ぶり・京風うどんの「なか卯」につきましては、新商品・季節限定商品の投入、既存商品のブラッシュアップによる商品力の強化、テイクアウト商品の充実、効果的な店舗販促を行い、業績の向上に努めてまいりました。

なお、牛丼カテゴリの当第1四半期連結会計期間末の店舗数につきましては、25店舗出店、9店舗退店した結果、3,013店舗(FC9店舗含む)となりました。

(レストランカテゴリー)

レストランカテゴリーの当第1四半期連結累計期間の売上高は、177億23百万円(前年同期比41.4%減)となりました。

株式会社ココスジャパンが経営するファミリーレストランの「ココス」につきましては、メニューのラインアップ強化、ごちそう感あふれるフェアメニューの投入、サービス水準の向上、テイクアウト商品のさらなる充実を図り、業績の向上に努めてまいりました。

株式会社ビッグボーイジャパンが経営するハンバーグ&ステーキレストランの「ビッグボーイ」等につきましては、メイン商品のブラッシュアップを図るとともに、お客様からご支持の高いサラダバー・スープバーをさらに充実させ、テイクアウト商品の強化を行うなど、業績の向上に努めてまいりました。

株式会社ジョリーパスタが経営するパスタ専門店の「ジョリーパスタ」につきましては、「おいしさと楽しさを追求するパスタ専門店」として、メニューのラインアップ拡充、安全でおいしい旬の食材を活かした新商品の投入を行い、一層のおいしさと楽しさを追求してまいりました。

株式会社TAG-1が経営する焼肉レストランの「宝島」、「熟成焼肉いちばん」、「牛庵」、「いちばん」等につきましては、業態コンセプトのブラッシュアップを図るとともに、肉の専門レストランとして厳選された牛肉と旬の食材を活かした品質の高い商品の提供、店舗サービス水準の向上に努めてまいりました。

株式会社華屋与兵衛が経営する和食レストランの「華屋与兵衛」につきましては、お客様の満足度向上を図るため、旬の食材を活かした和の魅力あふれる商品の開発、店舗従業員のサービス水準向上、労働生産性の改善等に努めてまいりました。

なお、レストランカテゴリーの当第1四半期連結会計期間末の店舗数につきましては、8店舗出店、9店舗退店した結果、1,360店舗(FC79店舗含む)となりました。

(ファストフードカテゴリー)

ファストフードカテゴリーの当第1四半期連結累計期間の売上高は、277億62百万円(前年同期比21.9%減)となりました。

株式会社はま寿司が経営する100円寿司チェーンの「はま寿司」につきましては、積極的な出店による業容の拡大を図るとともに、旬の食材を活かしたフェアメニューの投入及び商品品質の向上、店舗サービス・販促の強化、テイクアウト商品の充実等に努めてまいりました。

TCRS Restaurants Sdn. Bhd. が経営するチキンライス専門店「The Chicken Rice Shop」は、ハラル認証を受け、マレーシアで広く展開しており、老若男女問わずファミリー層に支持されています。

なお、ファストフードカテゴリーの当第1四半期連結会計期間末の店舗数につきましては、4店舗出店、2店舗退店した結果、935店舗(FC1店舗含む)となりました。

(その他カテゴリー)

その他カテゴリーの当第1四半期連結累計期間の売上高は、130億20百万円(前年同期比7.6%減)となりました。

当カテゴリーの主な内訳は、米国、カナダ、オーストラリアで寿司のテイクアウト店を展開しているAdvanced Fresh Concepts Corp.、冷凍ピッツァ等販売の株式会社トロナジャパン、グループの物流機能を担う株式会社グローバルフレッシュサプライ、備品・ユニフォーム等を調達する株式会社グローバルテーブルサプライ等であります。

なお、その他カテゴリーの当第1四半期連結会計期間末の店舗数につきましては、37店舗出店、23店舗退店した結果、4,416店舗(FC4,227店舗含む)となりました。

② 小売事業

小売事業の当第1四半期連結累計期間の売上高は、234億23百万円(前年同期比15.9%増)、営業利益は8億39百万円(前年同期は営業損失6百万円)となりました。

小売事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の流行による外出自粛、テレワーク、休校措置など緊急事態措置に伴う「巣ごもり需要」が高まるなか、店舗での感染防止策をとりつつ、安全・安心な商品の安定供給に努めた結果、前年同期比増収増益となりました。

当事業の内訳は、スーパーマーケット事業を展開する株式会社マルヤ、株式会社マルエイ、株式会社尾張屋、株式会社フレッシュコーポレーション、株式会社アタック及び青果販売等の株式会社ユナイテッドベジーズ等があります。

なお、小売事業の当第1四半期連結会計期間末の店舗数につきましては、1店舗退店した結果、132店舗となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産は3,796億72百万円となり、前連結会計年度末から138億18百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金、有形固定資産の増加等によるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は3,026億52百万円となり、前連結会計年度末から235億92百万円増加いたしました。これは主に、有利子負債の増加等によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は770億19百万円となり、前連結会計年度末から97億73百万円減少いたしました。これは主に、利益剰余金の減少及び自己株式の取得等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期業績予想につきましては、2020年8月7日に発表いたしました「2021年3月期 連結業績予想及び配当予想の公表に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	28,928	36,237
受取手形及び売掛金	13,937	15,491
商品及び製品	20,779	21,961
仕掛品	782	1,021
原材料及び貯蔵品	6,237	5,895
その他	18,319	19,293
貸倒引当金	△131	△130
流動資産合計	88,853	99,771
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	205,939	205,487
減価償却累計額	△121,479	△121,327
建物及び構築物（純額）	84,459	84,159
機械装置及び運搬具	14,833	15,023
減価償却累計額	△8,985	△8,675
機械装置及び運搬具（純額）	5,847	6,348
その他	120,537	123,735
減価償却累計額	△59,622	△61,171
その他（純額）	60,915	62,564
有形固定資産合計	151,223	153,072
無形固定資産		
商標権	37,992	37,648
のれん	17,426	16,982
その他	3,428	3,481
無形固定資産合計	58,846	58,112
投資その他の資産		
投資有価証券	2,507	2,467
差入保証金	33,405	33,335
その他	30,924	32,833
貸倒引当金	△14	△14
投資その他の資産合計	66,823	68,622
固定資産合計	276,894	279,807
繰延資産	105	93
資産合計	365,853	379,672

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	20,261	20,949
短期借入金	1,441	1,558
1年内償還予定の社債	1,600	1,600
1年内返済予定の長期借入金	23,647	25,246
未払法人税等	3,269	3,280
引当金	2,269	1,060
その他	37,574	37,467
流動負債合計	90,064	91,162
固定負債		
社債	25,600	25,600
長期借入金	128,500	150,264
退職給付に係る負債	714	715
資産除去債務	3,336	3,388
その他	30,845	31,520
固定負債合計	188,996	211,489
負債合計	279,060	302,652
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	26,996	26,996
資本剰余金	24,817	24,817
利益剰余金	42,090	34,111
自己株式	△2,260	△3,791
株主資本合計	91,643	82,133
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△79	△78
繰延ヘッジ損益	△66	6
退職給付に係る調整累計額	△35	△32
為替換算調整勘定	△4,849	△5,212
その他の包括利益累計額合計	△5,030	△5,317
非支配株主持分	179	203
純資産合計	86,793	77,019
負債純資産合計	365,853	379,672



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
売上高	153,319	128,373
売上原価	65,496	57,558
売上総利益	87,822	70,814
販売費及び一般管理費	83,388	78,785
営業利益又は営業損失(△)	4,434	△7,970
営業外収益		
受取利息	142	96
受取配当金	1	1
為替差益	75	115
持分法による投資利益	4	0
補助金収入	51	175
その他	202	216
営業外収益合計	478	605
営業外費用		
支払利息	505	506
その他	325	264
営業外費用合計	830	770
経常利益又は経常損失(△)	4,082	△8,135
特別利益		
受取保険金	21	21
その他	16	0
特別利益合計	37	22
特別損失		
固定資産除却損	172	192
減損損失	374	—
その他	116	129
特別損失合計	663	321
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	3,455	△8,435
法人税、住民税及び事業税	1,007	306
法人税等調整額	626	△2,367
法人税等合計	1,633	△2,060
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,821	△6,374
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△96	8
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	1,917	△6,382

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,821	△6,374
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3	0
繰延ヘッジ損益	△133	72
退職給付に係る調整額	93	2
為替換算調整勘定	△2,454	△343
持分法適用会社に対する持分相当額	△4	△2
その他の包括利益合計	△2,502	△271
四半期包括利益	△680	△6,645
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△580	△6,669
非支配株主に係る四半期包括利益	△100	23

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	外食事業	小売事業			
売上高					
外部顧客への売上高	133,105	20,213	153,319	—	153,319
セグメント間の 内部売上高又は振替高	590	7	598	△598	—
計	133,696	20,221	153,918	△598	153,319
セグメント利益又は損失(△)	4,441	△6	4,434	0	4,434

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額0百万円は、主にセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「外食事業」セグメントにおいて、店舗固定資産及び食品加工工場固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間において374百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「外食事業」セグメントにおいて、当社の連結子会社であるZensho Holdings Malaysia Sdn. Bhd. は、TCRS Restaurants Sdn. Bhd. の全株式を取得し、当第1四半期連結累計期間より同社を連結範囲に含めております。なお、当該事象によるのれんの増加額は1,685百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	外食事業	小売事業			
売上高					
外部顧客への売上高	104,950	23,423	128,373	—	128,373
セグメント間の 内部売上高又は振替高	963	6	970	△970	—
計	105,914	23,430	129,344	△970	128,373
セグメント利益又は損失(△)	△8,809	839	△7,970	△0	△7,970

- (注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△0百万円は、主にセグメント間取引消去であります。  
 2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。  
 3. セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。  
 4. 「企業結合等関係」の「比較情報における取得原価の当社配分額の重要な見直し」に記載の取得原価の当初配分額の重要な見直しに伴い、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、当該見直しを反映しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し

2019年5月31日に行われたTCRS Restaurants Sdn. Bhd. との企業結合について前第1四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、前連結会計年度末に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第1四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されており、暫定的に算定されたのれんの金額5,067百万円は、会計処理の確定により3,382百万円減少し、1,685百万円となっております。

この結果、前第1四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書は、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益、四半期純利益、親会社株主に帰属する四半期純利益がそれぞれ6百万円減少しております。